

黄斑浮腫に対するトリアムシノロン テノン嚢下注射

1) 黄斑浮腫について

眼の構造はカメラと似ています。外の様子が角膜、水晶体を通して目の奥の網膜（いわばカメラのフィルム）に写り、そこから脳に信号が送られます。黄斑部は網膜の中心部にあって、網膜の中で最も重要な場所です。黄斑浮腫は黄斑部が各種の病気によってむくんで（浮腫）しまうことによる疾患で、「視力の低下」、「ゆがんで見える」、「視野の中心が暗く見える」などの症状があらわれます。黄斑浮腫の原因としては「糖尿病網膜症」、「網膜静脈閉塞」、「ぶどう膜炎」などがあります。

2) トリアムシノロンについて

トリアムシノロンは副腎皮質ステロイドの一種で、眼球の周囲（テノン嚢下）に注射することによって黄斑浮腫を改善させます。

3) 実際の注射について

麻酔薬を点眼して麻酔します。続いてトリアムシノロンを眼球周囲（テノン嚢下）に注入します。注射は 30 秒程度で終了します。1 回の注射で 2 - 3 週間効果が持続します。その後は薬剤の効果を見ながら、注射を追加するかどうか検討します。詳細については担当医から説明させていただきます。

4) 合併症

A) トリアムシノロン注入により、眼圧が上昇することがあります。点眼薬や内服薬による治療を行いますが、それが無効な場合は手術が必要なこともあります。

B) 注射部位の出血・炎症により、瞼に皮下出血を起こしたり、腫れたりすることがあります。通常は 1 - 3 週間で自然吸収されます。-